

令和8年10月23日
農林水産部耕地課
電話 043-223-2978

被災した北印旛沼の農業用 排水機場について

令和8年台風第25号による北印旛沼一帯の浸水に伴い農業用の排水機場（大竹排水機場）が故障し、本格的な復旧まで時間を要することから、県が仮設ポンプを設置して、継続的な排水対策を実施することとしましたので、お知らせします。

1 大竹排水機場の被災状況

県では、北印旛沼周辺農地の湛水被害の軽減を図るため、地元からの申請を受け、大竹排水機場（以下「本機場」）や排水路等の整備を進めてきましたが、本年9月に発生した台風第25号に伴う浸水により、本機場のポンプ等の主要な設備が水没したため、現在、運転不可能な状態となっています。

本機場の本格的な運転再開には、ポンプや電気設備等を復旧させる必要がありますが、現時点では2年以上の期間を要する見込みとなっています。

2 周辺農地の排水について

これまで、応急的に国土交通省（TEC-FORCE）及び農林水産省（MAFF-SAT）からポンプ車等の支援を受けて排水を進めてきましたが、今後は県が仮設ポンプを設置し、当面の排水機能を確保することとしました。

本日、必要台数（小型水中ポンプ75台）の設置が完了する予定です。

○被災後の国のポンプ車による排水活動状況



○県の仮設ポンプの設置状況



写真（左）仮設ポンプの設置状況（吸水側） 写真（右）仮設ポンプの設置状況（排水側）

〔参考１〕大竹排水機場周辺の排水の流れ



○排水ルートの説明

本機場では、周辺農地から低地排水路へ集まってくる排水を、ポンプにより印旛沼へ圧送しています。被災直後は、低地排水路からポンプ車で直接印旛沼へ排水していましたが、県で設置する仮設ポンプは、被災前の排水ルートを利用して、排水を行う計画です。また、本機場以外で、仮設ポンプの設置に適した場所でも仮設ポンプを設置します。

〔参考２〕大竹排水機場の概要

- (１) 所在地 成田市松崎干拓地内
- (２) 施設目的 農地等の湛水被害の軽減
- (３) 建設期間 平成 16 年度～平成 21 年度
- (４) 施設能力

①排水ポンプ※^１ 口径 φ 800mm 排水量：毎秒 1.5 m^３ 1 台

②排水ポンプ※^２ 口径 φ 1,500mm 排水量：毎秒 4.5 m^３ 2 台

③電気設備 1 式

- (５) 受益面積 207.6ha

- (６) 使用 者 成田市、栄町

※ 1・・・日常的に発生する降雨時に運転するポンプ

※ 2・・・①のポンプでは排水しきれない大雨の時などに運転するポンプ



問合せ先：千葉県農林水産部耕地課
電 話：０４３—２２３—２９７８